

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520694

研究課題名（和文）都市社会構造と観光活動

研究課題名（英文）Urban Social Structure and Sightseeing

研究代表者

三枝 暁子（AKIKO MIEDA）

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：70411139

研究成果の概要（和文）：

本研究は、都市社会に発現する観光としての生産・消費など全般的な活動を具体的に解明するとともに、観光活動が都市社会構造全体のなかで、どのような位置を占めるか、京都を中心とした都市をフィールドに設定して中世～近現代のそれぞれについて検討した。その結果、寺社を中心とした空間と観光活動との関連について複数の時代にわたって解明した。また、訪問者の遺した史料を多く発掘し、その観光活動の内容を明らかにするとともに、観光を受け入れ側についても行政文書などの発掘・活用を行って解明を図った。

研究成果の概要（英文）：

This project explored in the Japanese history the activities of tourists who visited big cities (Kyoto and others), and them of people who received tourists in the cities. It also investigated the depth and breadth of the activities in the social structure of those cities. We mainly revealed through this project (1) those activities in the areas around temples and shrines, (2) newly discovered documents of tourists that showed their activities, and (3) receiving people's activities by official documents.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：日本史

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：観光、都市社会構造、京都、巡礼、寺社門前町、観光政策、国際交流、比較分析

1. 研究開始当初の背景

観光業振興への社会的期待の高まりや政府の観光政策の活性化に対応し、観光を対象とした研究が多様な学問領域で取り込まれている。

日本史学分野においても近年、観光に関する歴史的 analysis が盛んになった。これら先行研

究は、現代から見て「観光」と把握し得る諸活動や、その受け入れ状況、観光産業の様態を具体的に明らかにすることに成功している。だが従前の研究が観光業そのものに焦点をあてるあまり、社会の他要素との関連性について、なお考察の余地が残されている。端的にいえば、社会構造全体との影響関係を考

慮しつつ「観光」事象を理解する視点が十分な到達点にあった。

2. 研究の目的

本研究は、都市社会に発現する観光としての生産・消費など全般的な活動（以下「観光活動」と記す）を具体的に解明することを通じて、都市社会構造を還元していくことを目的としている。その際、都市および観光都市としての歴史をもっとも長く有する京都を主なフィールドとして設定した。

京都が本格的に観光都市化していくのは、政治・経済の中心が江戸にうつっていく、近世期である。先行研究においては、こうした首都の移動や京都の観光都市化について、政治史や経済史とからめながら、寺社参詣の隆盛にも目をむけつつ論じている。その一方、京都が中世後期から「町」や「町組」といった都市共同体を形成しつつあるなか、近世においていっそう「町人」の自治がすすみ、西陣織に代表される手工業産業が発展していったことも明らかにされている。本研究においては、社会構造の形成と観光化とがどのような関係にあるのか、時代の幅をひろくとりながら、各自の具体的なテーマおよび先行研究を追究・検討することによって、新たな都市社会構造論を構築していくことをめざした。

3. 研究の方法

各メンバーがそれぞれの具体的な素材と時代を設定し、観光と都市社会構造との関係について検討を行った。これを踏まえたうえで、相互に比較することによって、京都の都市社会構造と観光活動の歴史的展開について検証を図った。同時に、分担者の作業協力によって、他の都市の動向についても併せて検討、京都の特殊性と一般性に関する考察を深めるよう努めた。素材として、既存の刊行史資料を用いたほか、史資料館に所蔵される原文書についても収集・閲覧を図った。また、フィールドワークおよび聞き取り調査も行い、現代の観光および社会構造がはらむ問題をもだいたいな基点として考察をすすめた。

4. 研究成果

2010年度は、今後の研究方針の確認と巡見をおこなった。具体的には、(1)5月に最初の研究会を開催し、研究全体の方向性を議論。また、各自の担当について調整した。(2)9月に合同で巡検を実施。実地調査の一環として京都～伊勢神宮参道ルートに赴いた。(3)3月に2回目の研究会を開催、今年度の活動を総括し、加えて来年度の活動について協議した。

個別の成果としては、代表者・三枝が「豊臣秀吉の京都改造と『西京』」を執筆し、豊臣秀吉による京都改造により、京都の都市社会構造がどのように変容したかについて西

京地域を中心に検討した。その成果は、伊藤・吉田編『シリーズ伝統都市1 イデア』（東京大学出版会）に掲載されている。また、分担者の成果としては、伊川が「環シナ海域と中近世の日本」（『日本史研究』583号）などを発表し、中近世の日本を訪問したヨーロッパの人々の行動やその日本観察などについて検討した。城下は、担当分野に関する先行研究・資料収集を行った。資料については、京都市役所と京都府歴史資料館を訪問・調査した。山崎と浅野は、同様に担当分野に関する先行研究・資料調査を行った。さらに連携研究者の海原は、福井（4月）・長野（7月）・富山（3月）に出張して資料調査を実施し、それぞれの場所に残された旅行者の旅行記（江戸時代、原文書）その他を閲覧・撮影、旅行者の目を通してみた京都に関する記述を収集した。

つづく2011年度は、研究会を重視した活動をおこなった。具体的には、4月、5月、6月、8月、10月、11月に、計6回にわたる研究会を開催し、各自のテーマについて報告をおこない、報告質疑・討論。また、先行研究を取り上げて輪読会を持ち、先行研究の成果と問題点につき議論を繰り返した。その他、実地調査の過程で発見された史料についてもそれぞれ紹介、その内容について議論した。

個別の成果としては、代表者・三枝が単著『比叡山と室町幕府 寺社と武家の京都支配』（東京大学出版会、2011年）を執筆した。ここでは観光都市化していく以前の首都京都が、どのような権力構造のもとにあったのか、特に寺社に組織された諸集団の動向に着目しながら論じている。ここで示した権力構造の瓦解と寺社の有した諸権益の喪失の先に、寺社参詣の盛んとなる近世京都の観光都市化がすすんだのである。その近世京都については、「書評：杉森哲也著『近世京都の都市と社会』」を『史学雑誌』第121編第2号において発表していく過程で、杉森氏の著作に学び、手工業都市京都の階層性をおびた都市社会について検討した。さらに、東京大学にて開催された都市史研究会シンポジウムにて、「天正・慶長の大地震と京都改造」と題する報告をおこない、観光都市京都の形成の起点ともなった秀吉の京都改造が、2つの大地震のはざまにおいて進展していったことを明らかにした。分担者では、伊川がベルギーで開催された、International Workshop, Tribute, Trade, and Smugglingにて、The Concrete Image of Smuggling Trade in 16th Century East Asia と題する報告を行った。また、連携研究者の海原は、共著『新横須賀市史通史編近世』（横須賀市、2011年）を分担執筆し、伊勢参宮・西国巡礼に関する史料を紹介するとともに、当該地域における観光活動の具体像を明らかにした。さらに、

長野(7月)・福岡(11月)・東京(12月)・愛知(3月)へ出張し、原文書の閲覧・撮影を通じて、当該期の人びとが京都をどのように把握・理解したか、意識面を含めた考察をおこなう素材の収集に取り組んだ。一方分担者の城下は、引き続き担当分野に関する資料収集・読解を行った。資料については、京都府歴史資料館を訪問・調査した他、調査地域の住人へのヒアリングを行った。この他、国会図書館等でも地図を中心に史料閲覧・複写を行った。

2012年度は最終年度であるため、各自の研究成果の総括を重視して、研究会の開催を6月・2月の2回にとどめ研究の総括をおこなった。

個別の成果としては、代表者・三枝が論文「天正・文禄の大地震と京都改造」をまとめ、都市史研究会編『年報都市史研究 20 危機と都市』に掲載された。また、大阪歴史科学協議会12月例会にて、「中世後期京都の都市社会 身分と社会集団」と題する報告を行い、さまざまな諸階層・諸集団の形成する中世後期段階の京都の社会構造について検討した。また分担者山崎は、植民地満州を対象とした研究を進め、国内外の史資料館での史料調査を実施した。そして当地で日本人により作られた様々なアメニティー(競馬場、ゴルフ場、温泉、桜並木、鶏飼など)が、観光アイテムとしてどのような役割を果たしたのかについて分析を行った。結論としてこれら人為的に作られた観光アイテムが、戦跡や自然美と相まって、魅力的な観光ルートを形成していたこと、多くの日本人が内地から満州を観光しに訪れていたことを明らかにした。伊川は、'The Encounter between Europe and Japan', ACTA ASIATICA, 103号、「大英図書館所蔵史料からみる近世の大坂」『東京大学日本史学研究室紀要別冊「中世政治社会論叢」』の執筆をしたほか、カナダ・モントリオール他で開催された海外学会にて報告を行った。このように、伊川は外国使節がしばしば関西を含む日本を訪れた中近世移行期の研究を推進し、その背景、港町などが果たした役割などを解明した。これらの成果は本研究の研究会のほか、国内外における学会等においても発表されている。城下は、第二次世界大戦前後の京都の都市構造について、京都への観光客等の流入の状況と宿泊施設の数、宿泊施設の地域特性の状況と変化に関して明らかにする投稿論文の執筆を行い、投稿中である。また、連携研究者の海原は「書評 塚田孝編『身分的周縁の比較史』」『市大日本史』第15号を執筆、都市社会構造の分析に関する研究史上の到達点と、方法論上の課題について論じた。

以上のような調査・研究の結果、分担者各自が、それぞれのテーマに基づいて、史料収

集や研究史上の課題整理など、基礎的な作業を積み重ねることができたこと、また、研究会の開催を通じそれらの情報を共有しながら比較・検討できたことは、大きな収穫となった。さらにこうした作業や議論の成果を、学会発表や、論文・著書の執筆に昇華させていくことができたことも重要な成果である。反面、当初の目的とした観光都市京都の社会構造の復元・検討を核心にふれるかたちで展開していくこと、あるいは各自の成果を統合し、観光都市京都の歴史的特質を通時的に把握・理解していくことは、必ずしも十分に行えなかった。今後も、本研究における課題設定と成果を共有しながら、観光論と社会構造論とを接合させ、都市史研究をすすめていきたいと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

三枝暁子「東京大学文学部所蔵「本覚大師事書」の翻刻と紹介」『東京大学日本史学研究室紀要』別冊『中世政治社会論叢』、2013年3月、231-243頁、査読無
三枝暁子「天正・文禄の大地震と京都改造」『年報都市史研究』20、2013年3月、79-94頁、査読有

伊川健二「大英図書館所蔵史料からみる近世の大坂」『東京大学日本史学研究室紀要』別冊『中世政治社会論叢』2013年3月、181-192頁、査読無

三枝暁子「書評：杉森哲也著『近世京都の都市と社会』」『史学雑誌』第121編第2号、2012年、98-106頁、査読無

伊川健二「The Encounter between Europe and Japan」ACTA ASIATICA、2012年、77-94頁、査読無

海原亮「書評 塚田孝編『身分的周縁の比較史』」『市大日本史』15、2012年、178-189頁、査読無

伊川健二「環シナ海域と中近世の日本」『日本史研究』583、2011年、55-75頁、査読有

伊川健二「ウルバーノ・モンテと天正遣欧使節」『イタリア圖書』42、2010年、22-27頁、査読無

伊川健二「聖ペドロ・パウティスタと織豊期の日西関係」『待兼山論叢 文化動態論篇』44、2010年、25-46頁、査読無

[学会発表](計13件)

伊川健二「日明通交における通交制限と島嶼部交易」THE FIRST ASIA FUTURE CONFERENCE 2013、2013年3月8

日, CENTARA GRAND AT CENTRAL PLAZA LADPRAO (タイ)

伊川健二, Islands Trade in the Chinese Empire: Contradiction of the Maritime Ban System, Maritime Perspective in Eurasian and Indian Ocean World History: towards a Global History, 2013年2月18日, Indian Ocean World Centre, McGill University (カナダ)

三枝暁子「中世後期京都の都市社会 身分と社会集団」大阪歴史科学協議会12月例会、2012年12月16日、クレオ大阪東(大阪府)

山崎有恒「近代日本の植民地と競馬場」韓国日本学会シンポジウム招待講演、2012年8月24日、韓国淑明女子大学(韓国・ソウル市)

伊川健二, The conditions of regional exchanges between Southeast and East Asia in the sixteenth and seventeenth centuries, SECOND CONGRESS OF THE ASIAN ASSOCIATION OF WORLD HISTORIANS, 2012年04月9日, EWA CAMPUS COMPLEX, EWA WOMANS UNIVERSITY (韓国)

伊川健二, A Tentative Assumption On The Relation Between Piracy and Trade Centering On Early Modern Japan」, International Workshop "Globalizing Violence, Emerging Modernity: Piracy and Anti-Piracy Campaigns in Eurasia, c. 1600-1900" 2011年12月11日 学習院女子大学(東京都)

三枝暁子「天正・慶長の大地震と京都改造」都市史研究会シンポジウム、2011年12月4日、東京大学(東京)

伊川健二, The Concrete Image of Smuggling Trade in 16th Century East Asia, International Workshop, Tribute, Trade, and Smuggling, 2011年11月26日 Gent(ベルギー)

伊川健二, Islands Trade in the Chinese Empire, Contradiction of the Maritime Ban System, European Network in Universal and Global History (ENIUGH), 2011年4月16日 London(イギリス)

伊川健二「Global history and local perspective」堺市博物館ワークショップ、2011年1月29日堺市博物館(大阪府)

伊川健二「環シナ海域と中近世の日本」日本史研究会大会、2010年10月9日京都大学(京都府)

伊川健二「For considering multilateral relations in 16th century East Asia」日本アジア研究会、2010年6月20日早稲田大学(東京都)

伊川健二「16世紀の日本と環シナ海域」

大阪大学歴史教育研究会、2010年5月15日、大々大学(大阪府)

〔図書〕(計5件)

三枝暁子『比叡山と室町幕府 寺社と武家の京都支配』東京大学出版会、2011年、379頁

海原亮『新横須賀市史 通史編(近世)』第10章「地域の文化」・コラム、2011年、437-480頁

三枝暁子「豊臣秀吉の京都改造と「西之京」」伊藤毅・吉田伸之編『シリーズ伝統都市1 イデア』東京大学出版会、2010年、109-130頁

伊川健二, Antony, Robert J., ed., *Elusive Pirates, Pervasive Smugglers: Violence and Clandestine Trade in the Greater China Seas*, Hong Kong University Press, 2010年、73-84頁、162-163頁

伊川健二『日本・スペイン交流史』(坂東省次・川成洋編)、れんが書房新社、2010年、56-83頁

〔その他〕

ホームページ等なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三枝 暁子 (AKIKO MIEDA)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：70411139

(2) 研究分担者

山崎 有恒 (YUKO YAMASAKI)
立命館大学・文学部・教授
研究者番号：00262056

(3) 研究分担者

伊川 健二 (KENJI IGAWA)
大阪大学・文学研究科・招へい研究員
研究者番号：70567859

(4) 研究分担者

城下 賢一 (KENICHI JOHSHITA)
立命館大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：70402948

(5) 研究分担者

浅野 啓介 (KEISUKE ASANO)
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・研究員
研究者番号：50435905